



イマジン ロータリー

RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2022-2023年

Rotary District 2640 JAPAN

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST



海南東ロータリークラブ

会長 中村 俊之 幹事 千賀 知起 SAA 田中 淳

第 2134 回例会

2023 年 4 月 10 日 (月)

海南商工会議所 4F 12:30~
立法案検討会 報告

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. 出席報告
会員総数 44 名 出席者数 18 名
出席義務規定適用免除会員 3 名
出席率 43.90% 前回修正出席率 78.05%

4. 会長スピーチ 会長 中村 俊之 君
皆さんこんにちは。本日も例会に出席いただきありがとうございます。

本日の卓話は、3月理事会報告でも少しお話させていただきました。2640地区の現状についてのお話させていただきます。ロータリアンとしてはあまり好ましくない、いわゆる内輪もめのような事案になっています。一日でも早く平定することを望むところであります。

4月のロータリー特別月間は「環境月間」です。

【報告事項】

4月9日 和歌山JAビルにて、2023年度ロータリー米山記念奨学生オリエンテーション
カウンセラーセミナー及び米山奨学生入学式が開催されました。当クラブからは榊原さんが参加してくれました。来週の例会に、新しい奨学生の方に来ていただく予定です。

6. 幹事報告 幹事 千賀 知起 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山南RC 4月28日(金)→ 28日(金)
18:30~ ダイワロイネットホテル和歌山
(夜間例会)

○休会のお知らせ

田辺東RC 5月3日(水・祝)

7. 会員卓話 会長 中村 俊之 君

立法案検討会 報告

8 閉会点鐘

次回例会

第 2135 回 2023 年 4 月 17 (月)

海南商工会議所 12:30

PETS 報告 岸会長エレクト



ニコニコ・BOX

千賀 知起 君 和歌山南 RC の友好クラブが釜山から当店に来られて和食が好評でした。

4月は環境月間です

Rotary NEWS



ポリオ根絶活動はマラリアとの闘いにいかに役立つか

ポリオワクチンの接種活動を行うパキスタンのヘルスワーカー。マラリアが広がる仕組みを教えるための寸劇を披露するザンビアのボランティア。これらの取り組みは、一見まったく異なるように見えますが、深いつながりがあるのです。

ポリオ根絶の闘いでは、世界的なパートナーシップによって何百万人もの協力者を動員し、十分なサービスを受けていない人びとへの支援を行い、かつてないほどの量の保健情報を収集しました。ロータリーが中核的パートナーである世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI) は、マラリアとの闘いにおいても重要な役割を担っています。

四つのテスト 誰はこれにたしてか

- ① 真実かどうか ② 好意と友情を深められるか
③ みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

UNICEF（国連児童基金）の推定によると、ほぼ1分間に一人のペースで5歳未満の子どもがマラリアで死亡しています。「子どもたちは、免疫力がっていないため最も影響を受けやすい」と話すのは、「マラリアのないザンビアのためのパートナー」（200万ドルを提供するロータリーの大規模プログラム補助金の最初の受領プログラム）の委員長、ビル・フェルトさんです。

しかし、マラリアは予防可能な疾病で、根絶は可能だと信じる人は大勢います。GPEIの成果に触発され、そのツールを備えた保健専門家とロータリー会員が、ポリオ根絶活動の教訓をマラリアに適用しています。

情報という課題

ザンビアのローターアクターは、マラリア予防のために殺虫剤で処理された蚊帳の重要性を伝えるため、蚊に扮して寸劇を披露しています。これは識字率の低い地域の住民に働きかけるための効果的な方法で、「疾病を食い止めるには誤った情報を払拭する必要がある」というGPEIの教訓に基づくものです。「エチオピアでポリオの予防接種活動を始めたとき、このワクチンはイスラム教徒の子どもたちを不妊化するという噂が広まりました」と、Malaria Partners Internationalの事務局長であるジェニー・アンドリュースさんは話します。「しかし、ロータリーは宗教指導者、伝統療法の施術者、部族リーダー、医師と協力してラジオやテレビで情報を発信し、人びとの恐怖心を払拭できました。ポリオから学んだことは、問題が起こるのを待つのではなく、先手を打つということです」

マラリアとの闘いでは多くの誤解と直面します。農村部の家屋で殺虫剤を散布し、それによって蚊が飛び回ると、蚊を呼び寄せていると思われることがあります。蚊帳を配るとき、それが無料であることを知らない人たちがいます。また、感染症を治療せずに放置すると、ほかの人が危険にさらされるというのを多くの人が認識していません。

Malaria Partners Internationalの創立理事会メンバーであるジム・ムーアさんは次のように話します。「マラリアにかかっても、医療施設から遠く離れた場所に住んでいる人は、『まあ、前にもかかったことがあるし、我慢する』と言うことがあります。私たちは、体調が悪かったらマラリア検査を受けるようにする、という啓蒙活動も行っています。マラリア患者が蚊に刺されると、寄生虫が蚊に移り、さらに隣人や家族にも広がる可能性があるからです」「私たちの重要な仕事は、宗教指導者、ビジネスリーダー、部族リーダーなど、地域の指導者に情報を提供し、マラリアがどのように感染するかを理解してもらうことです」と彼は付け加えます。

ロータリーのポリオ根絶活動のおかげで、会員は既にこれらの指導者／リーダーたちとの強固な関係を築いています。ロータリー第5030地区のバスタガバナーであるエズラ・テショメさんは、1997

年以来、エチオピア、ウガンダ、ケニアでのポリオ予防接種活動でロータリー代表団を率いてきました。効果的にマラリア対策を講じるには、主要な政府関係者を巻き込むことが重要だとテショメさんは話します。幸いなことに、彼は誰に相談すればよいかを既に知っています。

「東アフリカでの私の仕事の成功は、適切な人脈を築くことにかかっている」とテショメさん。「この地域の国々では、保健大臣、首相、大統領府とのつながりを築くことができおり、これによってヘルスワーカーを支援することが容易になります」



早期介入の重要性と、病気を媒介する蚊の役割を説明するための寸劇を行う、ザンビアのコミュニティ・ヘルスワーカー

ザンビアのマラリア報告システムがいかに効果的であるかを理解するには、国内における大半の症例がどこで確認されているかを見ればよい、とムーア氏は指摘します。以前は、新しい症例は主に医療施設で報告されていましたが、現在では半数以上が村落で報告され、そこで治療が提供されています。つまり、ヘルスワーカーはより早く患者を発見し、ザンビアの多忙な保健センターから大きな負担を取り除くことができているのです。これは、ポリオ根絶活動からのもう一つの教訓を反映した、より大きなインパクトです。その教訓とは、疾病と闘いでは、特定の疾病だけに絞ることはできないということです。「私たちはいつも『ポリオプラス』という表現を使用します。この『プラス』とは、ほかの予防接種も奨励することであり、水と衛生のような取り組みも含むもの」と、ロータリーの国際・ポリオプラス委員長のマイク・マクガバンさんは話します。「人びとの心をつかみ、協力と支持を得るには、ほかの活動も行う必要があります」多くの国で、最もインパクトのある「ほかの活動」の一つにマラリア対策があります。予防接種の日には、しばしば蚊帳も一緒に配られます。GPEIのパートナーであるWHOは、ポリオ根絶活動のスタッフやインフラを活用し、2017年に120万人のナイジェリアの子どもたちに抗マラリア薬を配布しました。また、ロータリー会員や保健専門家がマラリアに取り組む際、単にマラリアへの対応だけでなく、それ以上のことをすることが増えています。「マラリアのないザンビアのためのパートナー」は、農村部でヘルスワーカーを訓練することで、さまざまな問題に対処しているとアンドリュースさんは話します。